日本海地域の自然と環境　第12回（保科担当分）

レポート課題：

「日本社会や行政は，少子化にどのように取り組むべきか？」

まず講義資料にもあった通り、少子化にもいろいろ原因がある。

少子化は子どもを持つ家庭、つまり子どもを二人、三人と作る家庭が減ったからではあるが一番の足かせとなっているのは経済的な負担だろう。生活費が子どもが増える分余計に増えるのはもちろんであるが、やはり高学歴社会になるにつれ、学費などの負担が増えているのが原因だと思う。大学への進学率は増えてはいるがそれはよく考えれば当たり前の事であって高校に通うのが当たり前な時代からの変移に過ぎないと感じる。実際入学者自体はそこまで増えているわけでもないので大学進学が最低ラインになってきているということだろう。

つまりハードルが上がったということだ。大学だけではなく、義務教育、高校の学費ですら払えない家庭もあるだろう。そうなると学費などの教育費が負担になっているのだと改めて思う。最近は年金問題や投票率の低下などが問題になることが多いが、これも少子化につながってくる話で、若者に対しての恩恵が少ないのが原因であると思う。現状少子高齢化で人口の割合を多く占めるのは高齢者になってきているがだからと言って若者に冷たくするのは間違っている話で、負の連鎖が余計に少子化につながっている。

　結局なにが言いたいかというと、ずっと高齢者ための社会を維持するのではなくどこかで変化をしないといけないということだ。何を変えるにしても大きな変化には国が関わるのでまずは投率を上げないといけないと思う。まだ私は投票を経験したことはないが、現状選挙に行くメリットはそこまで感じないし、現状キープが限界であると思っている。投票に特典やなにかをつけてどうにか投票率（特に若者）を上げる必要があると思う。そこで学費を安くするだとか研究職の待遇を上げるなどの政策がないと日本はもうこのまま廃れていくとおもっている。他には日本は優秀な人材を日本に留めることをもっと意識したほうがいいと思った。今は給料も上がらない物価は上がるで苦しい世の中であるのでなにか大きな変化が必要だろう。